学 校 だ よ り　指宿市立今和泉小学校

隼人松原

令和８年度 10 月号

★今小「馬姫」ブログ☆
ブログ「馬姫」のページ

学校教育目標：「夢に向かい，学び続ける今和泉の子の育成」
合 い 言 葉：「今日も楽しく元気よく　喜んで登校　満足して下校」
JRC３つの目標：「気づき・考え・実行する」

学力調査結果とこれからの取組

校長　柳田　健一

保護者・地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年４月に６年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果と、それをふまえた学校での指導方針、ならびに全国的な学力に関する背景についてお伝えいたします。

1. 本校の調査結果（成果と課題）

【図1　平均正答率】

	本校	本県	全国
国語	53	61	60．9
算数	59	55	56．4

国語は、本校の平均正答率は 53％で、県（61％）や全国（60.9％）の平均を約７ポイント下回る結果となりました。領域別では、特に「書くこと」や「読むこと」の力に課題が見られます。算数は、本校の平均正答率は 59％で、県（55％）や全国（56.4％）の平均を約４ポイント上回りました。一方で、領域別では「図形」に課題が残っています。

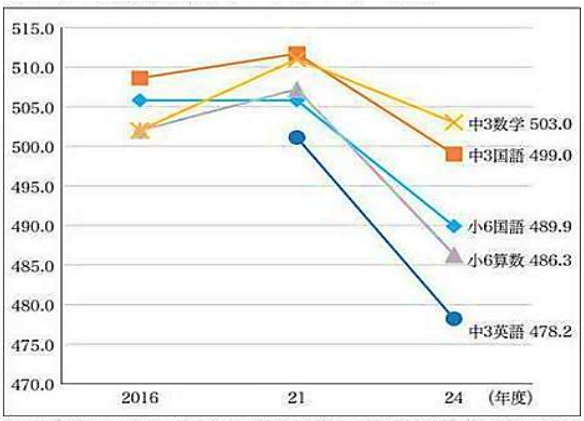
2. 学力向上に向けた学校での取組

本校では、テストの結果だけでなく、同時に実施された児童・学校への質問紙調査の分析結果もあわせ、全教職員で指導改善の方針を確認いたしました。

９月からは、「表現向上に向けた授業改善ロードマップ」という実践プランを立ち上げ、日々の授業改善に取り組んでおります。実践プランの詳細は、本校ホームページ掲載の「学校だより 10 月号（3 ページ以降）」に添付しております。ぜひご覧いただき、ご意見をお寄せいただけますと幸いです。

3. 全国的な傾向と背景にある３つの要因

【図2　平均スコアの推移】



（出所）2025年7月31日公表の文部科学省・国立教育政策研究所2024年度「全国学力・学習状況調査　経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果（概要）」より作成（表も同じ）

文部科学省の経年調査等において全国的な課題（学力低下傾向）が話題となりましたが、学校現場の視点からは主に以下の３つの要因が考えられます。

⑴ 生活習慣と学習機会の変化

スマホやゲームの時間が増加する一方、家庭での学習時間は減少傾向にあります。また、「学校が楽しければ成績にはこだわらない」という意識の変化や、家庭で学習について話す機会の減少も見られます。学校でのタブレット活用や自学指導の転換も進んでおり、こうした環境変化も影響していると考えられます。

⑵ コロナ禍による学習への影響

休校や各種制限を経験した時期の学習・生活環境の影響が考えられ、今後の調査でさらに検証されていきます。

⑶ 調査指標（数値）の捉え方

年度ごとの比較を可能にする複雑な指標（IRT）が用いられているため、数字の「下がり幅」という印象が先行しやすい側面もあります。

4. 今後に向けて

本校では、「幅広い知識と教養を身に付け、豊かな心と健やかな体を育てる」という教育の目標（教育基本法第2条の1）を今一度見つめ直し、子どもたち一人ひとりの学力・表現力向上に向けて前向きに取り組んでまいります。

今後とも温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

修学旅行を実施しました！



９月29日(火)･30日(水)の２日間、６年生が修学旅行へ行ってまいりました。 １日目、子供たちは児童会で集めた募金(児童･職員合わせて20,000円)を届けるため、熊本市役所を訪問しました。自分たちの手で直接届けるという、大変貴重な社会経験となりました。その後は熊本市内の自主研修を行い、熊本の歴史や文化に触れながら、各グループの目標を無事に達成することができました。 ２日目のグリーンランドでは、様々な体験学習を通して思い出のページをたくさん増やすことができました。互いのことを思いやりながら乗り物に乗ったり、お化け屋敷を楽しんだりと、マナーを守って行動する姿が見られました。

帰りの電車では、学校の先生方が手を振って迎えてくれたことや、駅で保護者の皆様が迎えてくださったことに、子供たちは嬉しさと同時に安心の笑顔を見せていました。

修学旅行での様々な学びを通して大きく成長した６年生が、今後の学校生活でもその力を発揮してくれることを期待しています。

千寿園デイサービスセンター見学から学んだこと



９月17日(木)、３・４年生が総合的な学習の時間の一環として、「千寿園デイサービスセンター」へ見学に行きました。 当日は、車椅子体験や歩行器についての説明など、様々な福祉体験を通して、高齢者や障害のある方々が日常で感じている不便さや困りごとについて理解を深めることができました。 今後は、今回学んだことをどのように地域に活かせるかを考え、将来の「自分の住みたい町」や「夢」について発表する学習を進めていく予定です。

黄色い旗でおもてなし！



９月25日（金)、２・３年生の児童が指宿商業高校の皆さんと観光特急「指宿のたまて箱（愛称：いぶたま)」をお出迎えしました。「黄色い旗」を大きく振っておもてなしをすると、ゆっくりと通り過ぎる列車の窓越しに、乗客の皆さんも笑顔で手を振り返してくださいました。地域の方々や高校生との交流を通して、指宿のよさを肌で感じた一日となりました。

新設「釣りクラブ」始動！ 学校応援団



９月25日(金)、クラブ活動の時間に、今年度新しく発足した「釣りクラブ」の活動を行いました。 当日は、児童11人への指導・支援のため、学校応援団や警察署の皆様が隼人松原前の海岸（海）に駆けつけてくださいました。餌の付け方から竿の投げ方まで熱心にご支援いただき、子供たちはみるみるコツをつかんで上達していきました。 学校からの依頼に際し、多くの方々にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。今後とも本校の教育活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

11月１日（日）から７日（土）まで地域が育む「かごしまの教育」県民週間が実施されます。日頃の学習の様子や、一生懸命取り組む姿をぜひご覧ください。いつも温かく見守ってくださる地域･保護者･関係者の皆様のお越しを心よりお待ちしております。詳細は、県民週間ミニポスターをご覧ください。

１１ 月 行 事



11月１日（日）～11月７日（土）
地域が育む「かごしまの教育」県民週間

１日(日)	運動会
２日(月)	振替休日
４日(水)	歯科教室・道徳授業参観
５日(木)	地域の方々とのふれあい活動
６日(金)	食に関する指導（５・６年生）
９日(月)	にこにこ週間（～14日）
11日(水)	秋の一日遠足（１～４年生）
12日(木)	三校合同史跡巡り（６年生）
14日(土)	土曜授業・授業参観
	全校ボランティア
16日(月)	小中一貫教育研修会（西中）
	４校時授業、給食終了後下校
17日(火)	児童集会
18日(水)	家庭学習強調週間（～27日）
	スクールカウンセラー来校日
24日(火)	異学年読み聞かせ
	社会科見学（消防署：３年生）
	ＰＴＡ理事会
25日(水)	登校班会
	総合的な学習（平和学習：６年生）
26日(木)	生活科（校区町探検：２年生）

表現力向上に向けた授業改善ロードマップ

～令和8年度全国学力･学習状況調査(児童質問･学校質問)の相関分析に基づく実践プラン～

指宿市立今和泉小学校長　柳田　健一

1 実態把握と課題の構造(調査結果の分析)

令和８年度全国学力・学習状況調査の集計結果において、本校の児童は、「友達と協力して課題解決に取り組む姿勢（児童 Q46：100%)」や「ICT 機器を活用した情報収集・プレゼン作成スキル（児童 Q36-2～4：83%～91.7%)」において非常に高い強みを示している。

一方で、「自らの考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てを工夫して発表する（児童 Q38：16.7%が『当てはまる』)」や、「国語の授業で文章を引用して考えが伝わるよう工夫して書く（児童Q58：16.7%が『当てはまる』)」といった、「表現・発信の深化」に関する項目に明確な課題が認められる。

傾向	質問項目	本校(肯定度)	全国	分析
強み (学習環境・強調)	児童 Q46：友達や周りの人の考えを大切にして、協力して課題解決に取り組んでいるか	100% (75.0%＋25.0%)	93.3%	安心感のある集団関係と共同的な学習習慣が確立されている。
強み (ICT 活用)	児童 Q36-4：ICT 機器を使ってプレゼンテーション（発表スライド）を作成できるか	83.3% (33.3%＋50.0%)	68.1%	操作スキルや資料作成の基盤が高く、表現の「手段」が整っている。
課題 (表現・工夫)	児童 Q38：考えが伝わるよう、資料や文章、話の組立てを工夫して発表していたか	16.7% (強く肯定)	23.2%	「発表する」段階から「相手に合わせて工夫する」段階への昇華が必要。
課題 (学校評価)	学校Q27：授業において、考えが伝わるよう資料や文章、話の組立てを工夫して発言できているか	選択肢３ (あまり当てはまらない)	16.6%	学校側も児童の工夫した発表・表現力に対して強い改善意欲を抱いている。
課題 (国語記述)	児童 Q58：国語の授業で、文章を引用して自分の考えが伝わるよう書き表し方をくふうしたか	16.7% (強く肯定)	33.5%	根拠(引用)を伴う論理的な文章構成指導の強化が求められる。
課題 (算数説明)	児童 Q66：算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていたか	25.0% (強く肯定)	31.0%	計算手順だけでなく、思考プロセスを言語化する場を設定する必要がある。

2 表現力向上に向けた3つの重点施策

本校の最大の強みである「温かい人間関係と協調性（Q46)」および「高い ICT ツール活用力（Q36)」を支えとして、課題である「構成の工夫・根拠に基づく発信力」を育成する具体的施策を以下の３つの柱として提示する。

【柱１】ICT 思考ツールを活用した「発表構成（フレームワーク)」の視覚化指導

○ 背景・根拠：スライド作成スキルが高い(Q36-4:83.3%)一方で、話の組み立ての工夫(Q38:16.7%)に課題。

○ 具体的取組：プレゼン作成前に、思考ツール（クラゲチャート、ピラミッドチャート等）をタブレット上に配置。『主張（結論）→根拠１・根拠２→まとめ』の枠組みを視覚的に整理させてからスライド化させるルールを徹底する。

○ 期待される効果：直感的な操作感を活かしながら、論理的な構成力を自然に身に付けさせることができる。

※ 複式指導に有効な学習指導及び読解力の向上をねらい、物語文の読み取り指導での「心情グラフ」の活用を提案。

【柱２】国語科を中心とした「引用・根拠の明確化」と言語活動の型化

○ 背景・根拠：国語の授業での引用工夫(Q58：16.7%)や読解に基づくまとめ(Q59：16.7%)の意識が低い。

○ 具体的取組」『〜ページの〇行目に「〜」とあるから、私は・・・と考える』という【発言・記述テンプレート】を教室内に提示。意見発表の際は感想ではなく、必ず本文や資料から１点以上の具体的な「引用・数値」を組み込ませる。

○ 期待される効果：根拠と主張を明確に分けて話す習慣が定着し、発言の内容に説得力が生まれる。

【柱３】協働学習（ペア・グループ）を生かした「説明・言語化」ミニワークの導入

○ 背景・根拠：友達の考えを尊重する姿勢（Q46：100%）をベースに、算数等の説明活動（Q66：25.0%）を強化。

○ 具体的取組：算数・理科の授業終盤に『隣の友達に自分の解き方を 30 秒で説明する』ミニ対話時間を設定説明後には、「図を使っていて分かりやすかったか」「根拠が伝わったか」を互いに確かめる簡易アドバイスを行わせる。

○ 期待される効果：安心感のある人間関係の中で、小刻みなアウトプットを通じた表現の慣れを醸成する。

３ 段階的推進ロードマップ(フェーズ別実施計画)

フェーズ	テーマ	実践項目	評価指標
Phase１：導入期（１〜２か月目）	型の提示と意識化 表現の基盤づくり	•全校共通の「発表テンプレート(主張・根拠・まとめ)」の作成・提示 •ICT 思考ツールの基本操作フォーマットをクラウドに共有 •国語科における引用記述ルールの共通化	•児童のテンプレート使用率 •授業中の発信スタイルの定着度
Phase:２：定着期（３〜５か月目）	教科横断的な実践 相互評価の導入	•算数科における「30 秒説明ミニワーク」の全学級導入 •総合的な学習の時間でのICTスライド発表とミニ相互評価の実施 •ペア相互評価シート(ルーブリック)の活用	•説明活動に対する児童の肯定感向上 •ルーブリック評価の実施率
Phase３：発展期（６か月目以降）	自律的表現と検証 成果の共有と改善	•総合的な学習の時間での探究発表の機会設定 •校内研究授業における表現力に特化した事前・事後の検討会開催 •児童質問紙類似アンケートの実施と検証(学校評価時等)	•児童質問 Q38 における肯定率 80%越え •学校質問 Q27 の改善評価

４ 校内研修・PDCAサイクルによる組織的推進

児童の表現力向上を確実に達成するためには、教員一人一人の指導力に依存するのではなく、「組織的かつ計画的な指導・検証体制(学校 Q17：PDCA サイクルの確立)」を機能させることが重要である。

【校内研修における PDCA 検証体制】

•Plan(計画)：全学年で共通して取り組む「言語活動の型」およびルーブリックを校内研究部で策定。

•Do(実践)：各教科の指導案に「表現力向上のための意図的指導」を盛り込み、日常授業で実践。

•Check(評価)：研究授業において、児童の「工夫した発表・発言の質」に焦点を当てた授業観察を実施。

•Action(改善)：学期ごとのアンケート集計をもとに、指導手立てや ICT テンプレートの修正・見直しを行う。

【まとめ】

本校の児童がもつ『友達を大切にする温かい心』と『ICT を自在に扱う技術』に、『論理的に考えを組み立て根拠をもって表現する力』が加わることで、児童は自発的かつ豊かに学びを深めていくことが期待される。